

令和4年度



YURIKAGO 通信

《春休み号》

R5.3.16 東京ゆりかご幼稚園



ムササビの“すーすー”が出産しました!

令和4年度、そして3年間を振り返り...

「集団感染を防ぐ」という公衆衛生の視点と、「充実した園生活をおくる」という教育・保育の視点とを、どのように両立させていくかが課題だと考えています。そのために何ができるのか、今まさに教職員と、休園中の対応について知恵を絞っているところです。

これは3年前のYurikago通信春休み号に記したものです。100年に一度のパンデミックに対峙しようとする心境が伝わってきます。あれから3年が過ぎ、当時3年保育で入園された今の年長さんが明日、卒園式を迎えます。たとえ制約のある3年間であったとしても、子ども達は困難を困難と感じること無く、状況に応じてしなやかに成長してきました。その成長した姿は、コロナ前の年長さんと比べても決して変わることなく、見事に幼稚園生活を充実させ、自信を持って小学校へと羽ばたいていこうとしています。そして、年中さん、年少さんも、逞しくも優しいお兄さん、お姉さんの背中を見て、確かに成長しています。改めて、子ども同士の「育ち合う力」に驚かされ、その重要性を強く感じます。

幸いにして、本園には子ども達を大きく包み込んでくれる「豊かな自然」があります。自然に囲まれた園庭では、コロナ前と何ら変わることの無い日常が繰り広げられてきました。また「ありのままの自然」の中で逞しく生きるムササビをはじめとする生き物たちの姿は、子ども達の情緒を豊かにし、好奇心や探究心を大きく育む存在でもあります。

先日のNHK「ダーウィンが来た!」でも放送された、ムササビの“すーすー”が、3月10日に出産いたしました。しかも、それを発見したのはなんと年長さん!「お腹の上に虫がいる!」の声からビデオをプレイバックしていくと、誕生の様子が鮮明に記録されていました。いつもご指導いただいているムササビ専門家の岡崎先生曰く、「ここまで鮮明な映像は無いのでとても貴重」とのことでした。

“すーすー”は出産後、天敵のテンやアオダイショウなどから赤ちゃんを守るため、食事に出かける僅か1時間を除き、四六時中赤ちゃんに寄り添って懸命に育てています。食事中は巣箱に赤ちゃんだけが残るため、天敵が来ても見つからないようヒノキの樹皮を細かく裂いた巣材で覆い隠しているのです。危険から我が子を守る知恵ですね。年長さんも赤ちゃんのために出来ることはないかと、早速、天敵除けのトタンを設置したりして、安全に育つ環境を整えています。

また、年長の卒園記念の一つとして、歴代の年長さんが作詞した「むささびのうた」の歌碑を作りました。後輩達はその歌碑を見ながら歌う姿を想像しながら丸太スライスに一人一文字を丁寧に書き入れ、「1番」の歌詞ができあがりました。ムササビハウスの隣に設置しましたので是非ご覧ください!



明日の卒園式をもって令和4年度的全課程が修了します。今日の終業式では、これまでの大きな成長を自信に変え、進級、進学に向け、しっかり前を向いて歩いて行けるよう、促してあげたいと思います。保護者の皆様には、子ども達の生活を、そして幼稚園をお支えいただき、ありがとうございました。

令和4年度の教育に関する重点項目を振り返り、学校関係者評価委員会を開催しました。その概要を裏面に記します。諸課題を踏まえ、令和5年度もさらに充実した教育内容になるよう、そして子ども達がより健やかに園生活をおくることができるよう取り組んでまいります。引き続き保護者の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

園長

3月の様子は「おうちえん」やSNSからご覧ください! 今、以下の内容がご覧になれます!

- ・ひな祭り会
- ・年長七国小訪問
- ・サッカー大会
- ・年長お別れ遠足
- ・年少、年中、年長森散策
- ・うさぎ組収穫 他



Blog



Instagram



YouTube

令和4年度 自己評価・学校関係者評価報告書

1. 本園の教育目標

- (1) 集団の中で自他を尊重し、大ぜいの人となかよく楽しく生活できる社会性を育てる。
- (2) ことにあたり、意欲的に行動できるこどもを育成する。
- (3) 基本的な生活習慣態度をしっかりと身につける。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領を踏まえ、「主体的、対話的で深い学び」の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	コロナ禍における環境の充実を図る	B	園庭遊具を中心にさらなる充実を図り、コロナ禍においても、可能な限り多様な遊びや活動を確保し、主体的で対話的、且つ創造的な遊びが広がる環境構成に努めることができた。
2	「幼保小の架け橋プログラム」を踏まえ、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から子どもの成長や課題を深く理解できるよう努める。	A	大学教授による複数回の研修会を通して、「幼保小の架け橋プログラム」への理解を深めた。また、日常保育の振り返りやドキュメンテーションを通して、「10の姿」の視点から子どもの遊びや生活、活動を通じた成長や課題を深く理解できるようになった。
3	満3歳児の発達段階を踏まえたねらいを再構築する。	A	満3歳児クラスの開設に伴い、4年保育の視点から子どもの発達段階を踏まえたねらいを再構築することができた。
4	当園の自然豊かな環境を活かし、専門家、行政、地域、テレビ局等からの協力を得ながら、園児の興味関心を深め、主体的な学びへと繋げていく。	A	ムササビをはじめとする野生動物が園庭に棲息するという当園ならではの恵まれた環境を活かし、「自然体験プログラム」として3名の専門家に指導いただいた。また、八王子市、町田市、NHK等の協力を得ながら、森にムササビの巣箱や観察用カメラを設置し、園児の興味関心をより深め、主体的な学びへと繋げていくことができた。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理 由
A	4つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、「主体的、対話的で深い学び」を伴う質の高い教育を実践することができた。また、実践を進める上での課題も明確になった。

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課 題	具体的な取り組み方法
1	室内環境の充実	主体性や選択性を伴う室内環境の充実に取り組む。
2	低年齢向け環境の充実	満3歳児に加え、2歳児の保育や1歳児親子クラスが開設されるに伴い、低年齢の遊具をはじめとした環境の充実を図る。
3	幼小の接続	幼小接続の重要性を踏まえ、連携小学校等と「架け橋プログラム」を推進する。